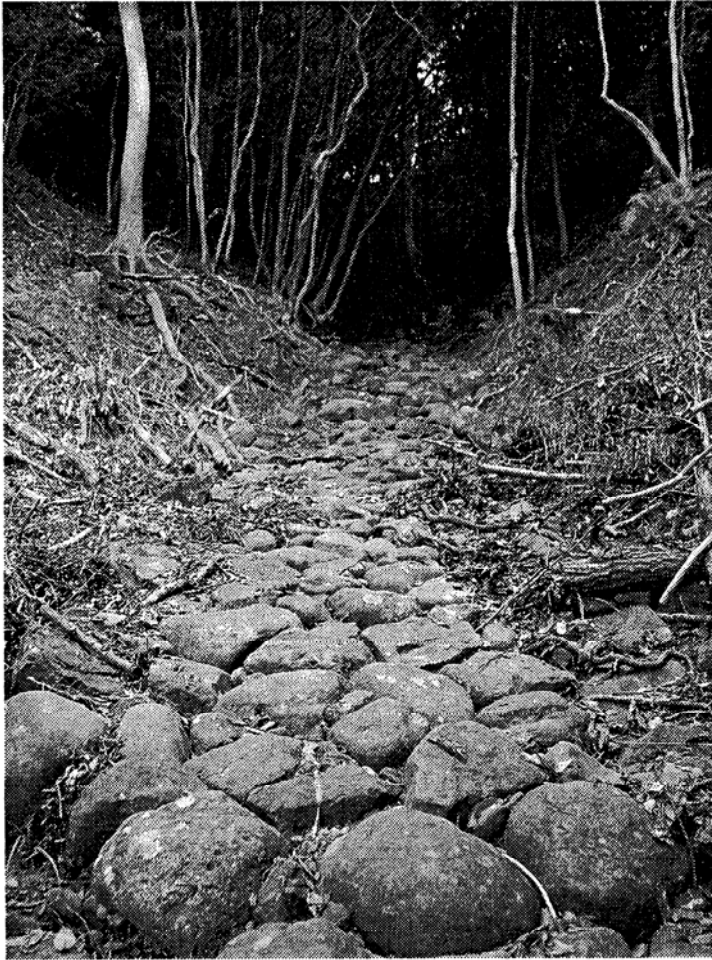


大辺路街道を文化財に

町指定候補地に6カ所

串本町教委

串本町教委は町内の熊野古道・大辺路街道の町指定文化財登録に向けて、調査や検討を進めている。現在、6カ所が候補地に挙がっている。文化財登録することで、保全・管理し、後世に残していくことがねらい。地権者の確定や同意が得られるかなど課題もあるが、町内の大辺路街道では初めてとなる文化財登録に期待が高まっている。



石畳が続く田子の浦の古道（串本町田子で）

大辺路街道は海岸に沿っているため、国道や線路、宅地の造成で分断された箇所もあるが、ボランティア団体「熊野古道大辺路刈り開き隊」が中心となり、山中に埋もれた道を開いてきた。町では2007年4月から文化財保護審議会を開き、候補地の検討や調査を進めている。

町教委は、指定するまでには、地権者の確認が必要であるし、文化財に指定された場合、維持・管理も求められるため、地権者に理解が得られるかどうかも課題としながらも「一気にすべてを文化財登録することが無理だとしても、本年度中に1カ所でも指定できればと考えている」と話している。

審議会では、当初12あった候補地から最終的に6カ所に絞った。候補地は雨島平見の古道（和深）、新田平見の古道（同）、田子の浦の古道（田子）、高場平見の境界石（田並）、逢坂峠の道標と妙典塔（有田）、高浜トンネル横の通り穴（高富）。新田平見や雨島平見、田子の浦の古道には石畳や掘割があり、逢坂峠には「石やまみち左いせみち」と書かれた道

標が残る。通り穴は海岸のすぐ近くにある自然にできた岩穴で、弘法大師がつえをついて穴が開いたという伝説もある。

文化財審議委員で、大辺路刈り開き隊の上野一夫代表は「世界遺産には登録されていないが、ここには十分に文化的景観がある。いつか世界遺産にという夢があるし、文化財に登録されることでさらに多くの人が訪れ、この地域の魅力を知ってもらいたい」と話している。

大辺路は、田辺市の北新町から那智勝浦町の浜ノ宮までの延長約90キロの海岸沿いの道。照葉樹林や海を望む景観が特徴で、この区間では富田坂（白浜町富田―安居）、仏坂（白浜町安居―安宅）、長井坂（すさみ町和深川―見老

津）が世界遺産に登録されている。